

大学教育における書くこと ——苦手になるメカニズムと教育的対処について——

I. イントロダクション	
(1) 著書（研究）のコンセプト	表 1.1
(2) お話すること（Ⅱ，Ⅲ）	
II. 実践・対応の n ポイント	
(1) 書く「前」に合意する（5 章）	表 2.1, 表 2.2, 表 2.3
(2) 「論ずる」を学ぶ（終章+New）	表 2.4, 表 2.5
(3) “考え”の文章化技術を学ぶ（7 章）	表 2.6
III. 調査・分析結果のダイジェスト	
(1) どうして「書くのが苦手」になるのか（1 章）	
(2) 「書くのが苦手」なのは誰か（2 章）	
(3) 「書くのが苦手」とはどういうことか（3 章）	表 3.1, 図 3.1
(4) 苦手意識は過剰ではないのか（4 章）	表 3.2

「*章」は、『「書くのが苦手」をみきわめる』（学術出版会，2010 年 10 月）より

表 1.1 学習技能の項目とそれぞれの「苦手」選択率一覧

項目	「苦手」率
1 まとまりのある長い文章を書くこと	64.4
2 プレゼンテーション（発表，アレンジ，ディスプレイ）すること	59.1
3 文章の要約をすること	53.9
4 自分の考えをわかりやすく説明できること	47.8
5 スケッチすること，描くこと	44.6
6 脈絡にあった送り仮名，句読点，語彙，文法を正しく使うこと	32.1
7 装置・機械などを操作したり，利用したりすること	29.0
8 データの記録・メモができること	28.8
9 自分のアイデアを試すための方策を講じること	25.1
10 他人の意見・行動に根拠ある批判をすること	23.0
11 仮説・仮定をたてること	20.6
12 論理的に物事を考えること	18.9
13 表，図，地図，グラフを読むこと	18.5
14 データの記録・メモができること	18.4
15 表やグラフを描くこと	18.3
16 与えられた情報や仮定から結論を導くこと	17.9
17 必要な情報を探し出し，整理すること	16.9
18 基本的な公式や事項などを記憶し，必要に応じて思い出すこと	15.3
19 物事を比較して客観的に評価すること	15.1
20 共感すること	9.3

表 2.1 質問の一覧

質問		回答形式
[a]	これまで大学の授業で実際に課されたレポートのうち、あなたがとても書きにくいと感じたり、書けずに困ったりしたものはありますか？	選択
[b1]	出題文	記述
[b2]	量の規定（文字数、用紙・枚数など）	記述
[b3]	執筆の期間（出題中提出までの時間）	記述
[b4]	ほかの条件	記述
[b5]	その課題は、あなた自身の（独自の）考えや意見を述べることを求めていますか？	選択
[b6]	その課題は、いろいろな文献を読んだり情報を集めたり、調査したりすることを求めていますか？	選択
[b7]	その課題ではテーマにかんする十分な専門知識をもっていることが重要だ、とあなたは思いましたか？	選択
[b8]	その課題では授業で教えられた内容を理解し、身につけていることが重要だ、とあなたは思いましたか？	選択
[b9]	そのレポートをなるべくよいものにしよう、と当時のあなたは努力しましたか？	選択
[b10]	提出のため書き上げたレポートのできばえに、当時のあなたは満足することができましたか？	選択
[b11.1]	あなたがそのレポート課題で苦労した（大きな労力や時間をついやした、心理的な抵抗や負担を感じた）ことについて——上記 b1-b10（もしくは「ほか」）中、主な苦労のもとになったものを 1～3 つ選んでください	選択
[b11.2]	あなたの苦労が具体的にどんなものであったか、簡潔に説明してください	記述
[c1]	授業科目名	記述
[c2]	受講生の属性と数（学部や学年など、大まかな人数）	記述
[c3]	必修・選択の別	選択
[c4]	その授業科目は自分の専攻分野と関連している、と当時のあなたは思いましたか？	選択
[c5]	その授業の内容に、当時のあなたは興味をもつことができましたか？	選択
[c6]	その授業に、当時のあなたは意欲的に参加していましたか？	選択
[c7]	その他の特徴など	記述

回答形式の「選択」は、3～4 つの選択肢から 1 つを選ぶもの（[b11.1]を除く）。

表 2.2 出題文・条件と苦労の内容①

ケース 41 文学部	出題文	「健康とは何か」「有酸素運動のもたらすもの」
	付帯条件	A4 専用紙 2 枚、約 3,000 字、約 1 週間、手書き
	苦労の内容	大学に入って（人生において）初のレポートのテーマが非常にわかりにくいものであり……大変だった。レポートが何なのか、また提出するものがレポートとして認められるのかわからないまま提出した
	科目	健康・スポーツ科学演習（必修）
ケース 31 農学部	出題文	地球温暖化について論ぜよ
	付帯条件	レポート用紙 3 枚、1 ヶ月程度、手書き、図表を用いてよい
	苦労の内容	出題文が大ざっぱ？過ぎて何を書けばいいかに困った。レポート用紙 3 枚分というのも苦痛で……
	科目	共通コア：社会性（必修）
ケース 25 教育学部	出題文	次の 4 つのテーマの中から一つ選べ：①……④心を量的に見ることについて述べよ（私は④を選択）
	付帯条件	2,000 字程度、約 2 週間
	苦労の内容	課題文の意味が分からなかった（「量的に見る」とは？）
	科目	人文学入門（選択必修）

表 2.3 出題文・条件と苦勞の内容②

ケース 26 文学部	出 題 文	あなたの専門分野における擬態と、それを見破る方法について論じよ。
	付 帯 条 件	A4 用紙 1 枚, 約 1 週間
	苦 勞 の 内 容	……授業をふまえないで自分の意見を書いていいのか悩み, かといって授業の内容をふまえるとレポートが書けない……
	科 目	嘘とだましの科学 (選択)
ケース 28 教育学部	出 題 文	授業内容をふまえて, 残りの学生生活でやりたいこと, やれること, やらねばならないことを自分の研究内容に関連して述べよ
	付 帯 条 件	3,000 字 1 週間
	苦 勞 の 内 容	授業内容と自分の研究内容はあまり関係がないように感じられたことと, 字数が多いと感じられたこと
	科 目	共通コア: 社会性 (必修)

表 2.4 出題文

改訂前	1549 年 8 月中旬に鹿児島に上陸した宣教師フランシスコ・ザビエルは, 同年 11 月 5 日付の書簡 (carta) でヨーロッパ人として初めて日本について詳細に紹介している (資料 A)。その 36 年後の 1585 年にルイス・フロイス神父がヨーロッパと日本の文化を比較した「覚書」(tratado) をまとめた (資料 B)。この二つの資料の書き方や内容について論じなさい。
改訂後	1549 年…フランシスコ・ザビエルは, 同年 11 月 5 日付の書簡 (資料 A) でヨーロッパ人として初めて日本について詳細に紹介している。その 36 年後の 1585 年にルイス・フロイス神父がヨーロッパと日本の文化を比較した「覚書」(資料 B) をまとめた。この二つの資料の書き方や内容について以下の 2 点に留意して論じなさい。 1) ザビエルとフロイスはヨーロッパと日本の関係をどう見ているのだろうか。 2) 両者による日本の描写は何故これほど異なっているか。

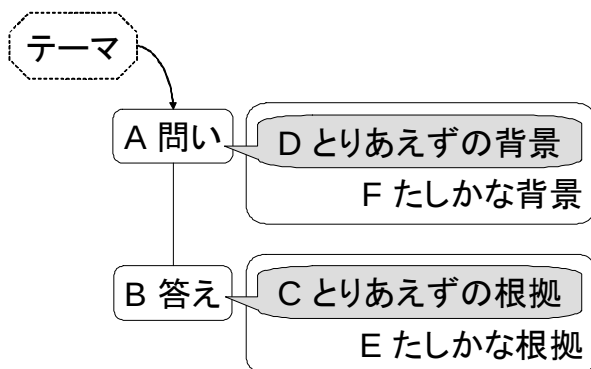


図 2.1 「論ずる」のフルセット

表 2.5 書くものの種類と「論ずる」の要素

種類	期間	文字数	要素					
コメント ミニツツペーパー (質問)	ほぼ 即時	≤400	A	B	C			
			A			D		
レポート	≤2週間	2,000	A	B	C	D		
大レポート 卒業論文	≥3週間	≥5,000	A	B	(C)	(D)	E	F

表 2.6 参考になるであろう文献一覧

川喜田二郎（1967）『発想法』（中公新書 136）中央公論（新）社。
木下是雄（1981）『理科系の作文技術』（中公新書 624）中央公論（新）社。
木下是雄（1994）『レポートの組み立て方』（ちくま学芸文庫）筑摩書房。
戸田山和久（2002）『論文の教室』（NHK ブックス 954）日本放送出版協会。
Boardman CA and Frydenberg J (2008) *Writing to Communicate 2: Paragraphs and Essays, 3rd ed.* Pearson Education Inc.
大井恭子（編著），田畑光義・松井孝志（著）（2008）『パラグラフ・ライティング指導入門』大修館書店。

表 3.1 書くことに対する意識についての質問

短文（略記）	回答の選択肢
b1. 私は書くことが苦手だ（苦手だ）※ b2. 私は書くことがきらいだ（きらいだ） b3. 私は書くことについて自信がない（自信がない） b4. 私は書くことをなるべく避けたい（避けたい） b5. 私にとって書くことはめんどろだ（めんどろだ） b6. 私にとって書くことはつらい（つらい） b7. 私には書くことにたいする意欲がない（意欲がない） b8. 私は書くことがヘタだ（ヘタだ） B9. 私は自分で書いた文章に満足できない（満足できない）	[1] そうは思わない [2] どちらかといえばそうは思わない [3] どちらかといえばそう思う [4] そう思う [u] どちらともいえない／わからない

※：キー変数。

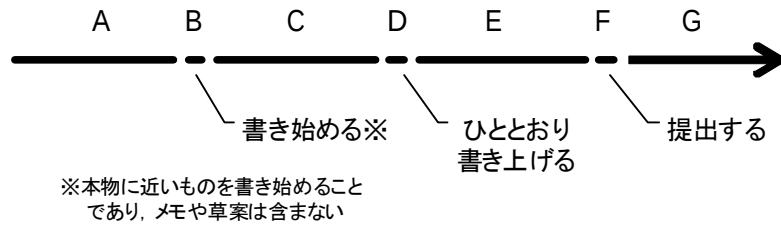


図 3.1 文章執筆の 7 ステップ

表 3.2 『理由書』評価時の心理

変数	内容	具体例	頻度
P1	自己評価は自動的に低くなった	はじめから／先入観により／無意識のうちに…	23.1
P2	自文をみて負の感情が起こった	嫌だ／恥ずかしい／悪いイメージが…／苦労が甦る	26.2
P3	他文がすぐれたものに思えた	とても上手／本当に苦手？／なぜここにいる？	20.0
P4	自文を読むことを避けた	後に回した／ほとんど読まない／まともに読めない	13.8
Q1	他者を意識して、自文の高い評価を避けた	そんなことをしてはいけない／どう思われるか／自信過剰と思われたくない	7.7
Q2	謙遜した		7.7
Q3	他者を意識して、他文の低い評価を避けた	そんなことをしてはいけない／申し訳ない／わるい	6.2
Q4	他者評価が低い場合にそなえて自己評価を低くした	もっと低い評価を受けたら傷つく／恐ろしい	3.1
R1	自文を公正に評価できなかった	他人の目になれない／客観的でない／冷静でない	20.0
R2	自文にうまく書き表せなかったことがあり、評価を低くした	本来の意図・伝えたいことと違う／納得できない	9.2
R3	他文の場合はよいところをみた		7.7
R4	上達のために自己評価を低くした	もっと上手になりたい・なれるはずだと思うから	4.6
R5	自文の場合は欠点をみた		4.6
R6	自文の評価法に困った	どう評価してよいかわからない	3.1
R7	他文は外観によって評価した	1 文の長さ／字のきれいさ	3.1
P1-R7 のうち、いずれか 1 つ以上を含むケース			72.3

右列の数字は出現頻度（％）。

P1-4：もっぱら自己内に閉じた作用；Q1-4：他者との関係に基づく作用；R1-7：評価基準に関わる作用。